

あかるい 元気な 鶴見っ子

鶴見の子どもたちは、みんな明るく元気です！
その鶴見は世界につながる海が広がり、大型船が
行き交っています。緑あふれる丘陵地帯、カヌー
や花火大会が楽しめる鶴見川、歴史を伝える街角。
町並など、夢を育む大きな舞台が用意されていま
す。やさしい地域の人たちに見守られて、すくす
く伸びやかに未来への夢を育みましょう！

いにしえの暮らしが伝える横溝屋敷

みその公園「横溝屋敷」は、獅子ヶ谷にあります。
茅葺の長屋門や母屋などの屋敷構えが、江戸時代
の農村生活の原風景を伝えてています。七草がゆ・
ひなまつり・七夕まつり・月見の会などの年中行
事も大人気！五郎兵衛稻作教室では、小学生たち
が田植えから収穫までを体験しています。横浜市
指定有形文化財です。

海に はばたく つばさ橋

ばし

鶴見には海沿いに2本の高速道路が通っています
が、その一つ首都高速道路湾岸線の扇島と大黒ふ
頭とを結んでいるのが鶴見つばさ橋です。横浜ベ

イブリッジと並び、横浜を代表する橋で、中央径

間長510mは多々羅大橋(広島県・愛媛県)、

名港中央大橋(愛知県)に次いで斜張橋として国

内第3位、全長1020mは一面吊り斜張橋とし
ては世界最大級の長さです。

笑顔です わっくんひろばの 帰り道

「わっくんひろば」は、平成21年（2009）3月に開設された鶴見区地域子育て支援拠点です。就学前のお子さんとその保護者が、遊んだり、交流しながら、ゆっくり過ごせるひろばです。子育てアドバイザーに、さまざまな相談も気軽にできる、親と子が「ホツ」とくつろげる自由な場所です。

太田道灌 一夜の夢の兜塚

おおたどうかん いちや ゆめ
太田道灌は室町時代の武将で江戸城を築いたこと
で有名です。あるとき加瀬山（川崎市幸区、夢見
ヶ崎公園）に来て城を築こうとして一夜をすごし
たとき、鷺が飛んできて道灌の兜をくわえて駒岡
方面に飛び去り、丘の上に落とす夢をみました。
道灌はこれを不吉なこととして加瀬山に城を築く
のをあきらめました。鷺が落とした兜を埋めた丘
が、兜塚といわれるようになりました。

風はこぶ チョコビールの 香りして

森永製菓の鶴見工場で作られるチョコレートやビスケットは、大正時代から全国へ送り出されてきました。甘い香りのする工場見学は、小学生などに人気です。

日本最初に横浜山手に誕生したキリンビールは、関東大震災後に生麦に移つてきました。ビールの製造過程をたどる工場見学や緑豊かな庭が人気のスポットになっています。

季節ごと 四つの表情 三ツ池公園

三ツ池公園は、日本の「さくら名所百選」の一
つにふさわしく、約80品種千本以上の桜が壮観で
す。緑豊かな百樹の森と満々と水をたたえる大き
な三つの池にたくさんの野鳥も飛来します。新緑、
紅葉など、四季折々の彩りの中でバードウォッチ
ングも楽しめます。韓国京畿道との友好記念のコ
リア庭園や中国遼寧省から贈られた天馬の像もあ
ります。

黒川莊三 くろかわしょうぞう

平和の願い へいわのねが

生麦事件碑 なまむぎじけんひ

文久2年（1862）8月、薩摩藩の大行列と馬に乗った4人のイギリス人が遭遇し、言葉も通じず、互いの文化を知らないことから不幸な殺傷事件が発生しました。犠牲になつたりチャーチソンの死をいたみ、万国の平和を願い、明治16年（1883）に鶴見村戸長黒川莊三が旧蹟碑を建てました。生麦の人たちが守り続け、横浜市地域史跡に登録されました。近くには生麦事件参考館もあります。

源平五色の椿 つばき 寶藏院 ほうぞういん

鎌倉時代創建と伝わる馬場の寶藏院には、1本の幹から五色の花を咲き分ける「源平五色の椿」があります。推定樹齢600年以上で、「かながわの名木百選」に選ばれ、3月中旬から5月初旬が見ごろです。一年中涸れることのない靈泉延命水もあります。朱塗りの本堂には、弁才天の化身「白蛇さま」もまつられています。

子育て観音 東福寺

寛治元年（1087）京都醍醐寺の勝覺僧正の開創と伝える東福寺の如意輪觀音は、堀川天皇の皇子誕生祈願を成就させて以来、子育て觀音として信仰を集めようになりました。江戸時代には多くの参詣客でにぎわい、街道名物にもなった子育て饅頭は飛ぶように売れました。芭蕉句碑「觀音の甍みやりつはなの雲」が東福寺が桜の名所であつたことを伝えています。

山門さんもん

をぬければそこは

大本山總持寺だいほんざんそうじ

曹洞宗大本山總持寺は、石川県から明治44年（1911）に移転して、平成23年（2011）に百年を迎えます。仏殿や紫雲台、三松閣、百間廊下、香積台、僧堂などは、国の登録文化財に登録された大正・昭和期の名建築です。千畳敷の広さを誇る法堂は本堂としては日本一の大きさとも言われています。墓地には浅野総一郎や石原裕次郎などの著名人も眠っています。

四季の花咲き競う花木園

馬場花木園は、市内では珍しい和風の庭園です。力タクリ、ヒオウギ、桔梗など、山野草の区画が整備され、梅林、竹林、菖蒲田、藤棚、牡丹の小路、萩のトンネルなどもあり、新緑、紅葉、四季折々の草花が楽しめます。池のほとりの四阿からは水鳥が遊ぶ姿も見られます。園内を一望できる休憩棟は、茶会や句会などに利用されています。

末吉の台地に群れたナウマン象

上末吉・梶山の周辺の土地は下末吉層という関東に広がる平らな台地にあります。約12万5千年前、海が平野部に侵入したことで、下末吉層ができました。下末吉層からは、ナウマンゾウだけでなく、ムカシジカなどの化石が発見されたと伝えられています。



世界をつなぐ 大黒ふ頭

大黒ふ頭は、国内外の海上出入り貨物の増加などに対応するため、昭和46年（1971）から平成2年（1990）にかけて埋立てし（322ha）、保税倉庫や巨大物流センター、高速道路のインター・エンジもある最新のふ頭です。平成21年（2009）に世界最大級の客船、クイーン・メリーラーが入港したのは記録的な出来事で話題になりました。先端部には「大黒海づり公園」があります。

宗泉寺 五百羅漢の お出迎え

上の宮の宗泉寺には、さまざまな姿をした羅漢像
がまつられてています。水仙、梅、桜など四季折々
の花の香りの中で小鳥のさえずりやせせらぎの音
をききながら、羅漢さんたちはそれぞれの時間を
ゆったりとすごしています。自分に似た顔、友だ
ちに似た顔などを探してみるのも楽しいでしょう。



たまつ

むかし

田祭りに 昔をおもう 鶴見神社

鶴見神社に伝わる田祭りは、五穀豊穰・子孫繁栄を願う行事として鎌倉時代から毎年お正月に行われてきました。明治維新後百年間途絶えていましたが、稻作文化を伝える貴重な伝統行事・民俗芸能として、昭和62年（1987）に復活再興され、以来、現在は毎年4月29日に行われています。早く女や子牛の役として小中学生も参加しています。

茶色から

黄色にかわつた

鶴見線

ちやいろ

きいろ

つるみせん

京浜工業地帯を走る鶴見線には、

平成8年（19

96）3月まで、クモハ12形という戦前形国電と

呼ばれた茶色い電車が走っていました。

この車両は、当

時日本で最古の電車で、床が木の板張りの

車両でしたが、今では引退し、黄色い電車に変わ

りました。海の上にある海芝浦駅には、公園もあ

り、小さな旅を楽しむ人たちにも愛されています。

ちいさな旅を楽しむ人たちにも愛されています。

鶴見川 夏の夜は 花火大会

鶴見川は、多摩丘陵の山中を源流とし東京湾へと
流れ、全長42・5kmの横浜市唯一の一級河川
です。むかしは氾濫や洪水を繰り返す暴れ川でし
たが、近年は堤防も整備されて川沿いには散策路
もでき、憩いの場になっています。昭和62年（1
987）に区民の手づくりではじめられた花火大
会（現在の鶴見川サマーフェスティバル）は、た
くさんの人でにぎわう鶴見の夏の風物詩です。

寺尾城 鶴見にあつた お城だよ

てら お じょう つる み

しろ

中世の頃、寺尾の城主諏訪三河守五代の城（館）
があつた馬場の殿山には、「寺尾城址」の碑があります。
重な遺構は、殿山公園として整備・保存されました。
城址麓の観音堂跡からは、黄瀬戸の壺に入つた古
銭4千枚が出土しました。馬場や諏訪坂などは寺
尾城や諏訪氏ゆかりの地名です。



東洋一の遊園地 花月園

大正3年（1914）に開かれた日本で最初の児童遊園地鶴見花月園は、東洋一と呼ばれた大遊園地でした。中でも大山すべりは子どもたちに大人気でした。日本で最初の国際児童絵画展も開催されました。「東の宝塚」とも呼ばれた少女歌劇では、一寸法師や牛若丸が登場するおとぎ歌劇も上演されました。ダンスホールには小説家の谷崎潤一郎も踊りに来ました。戦後は競輪場になりました。

南極観測船

「ふじ」と「しらせ」は 鶴見産

つるみさん

昭和31年（1956）に初代南極観測船として「宗谷」を大改造したのがきっかけとなり、二代目の「ふじ」、三代目の「しらせ」は、鶴見の日本鋼管浅野ドックで造られました。惜しくも四代目の「新しらせ」は鶴見産ではありませんが、鶴見の造船技術がわが国の南極観測船に活かされてきました。第7次越冬隊の武藤晃隊長は鶴見に住んでいました。

や

ねん

しょだい

なんきょくかんそくせん

にだいめ

よん

だいめ

にほんこうかん

そくせん

い

つるみさん

す

にぎやかに 昔も今も 蛇も蚊も祭り

毎年 6月第1日曜日、「蛇も蚊も出たけ、日和の
雨け」と勇ましく掛け声をかけながら、茅で作つ
た大きな蛇を担いで家々を回る「蛇も蚊もまつり」
は、江戸時代から続く生麦の伝統行事です。

本宮の道念稻荷社と原の神明社の境内でそれぞれ
20mもある蛇を作り、疫病退散、雨乞いを祈つて、
大人も子どもも一緒に担ぎます。

ぬくもりのある町つくるう 鶴見人

鶴見を訪れた人、鶴見に移り住んだ人たちが「鶴見の人は親切であつたかいですね」「知らない人に助けられました」と、嬉しそうに話してくれます。「人情のまち鶴見」の良さ、昔からある鶴見の気風、助け合い、親切心を大切にして、だれもが「住んでよかつた」「このまちで暮らせてよかつた」と言える、よりよいまちをみんなで築いていきましょう。

ねぎぼつず 空の青さと 競つてる

そら

あお

住宅地としてめざましく発展した鶴見の高台に
飲料水を供給するため、昭和8年（1933）
に配水池と配水塔が計画され、昭和12年（19
37）に完成了。馬場の高台の天空にそ
びえる高さ26mの円筒形の配水塔は、「ねぎぼう
ず」の愛称で親しまれている鶴見のランドマー
クの一つです。



のんびり釣りをするなら 大黒海づり公園

大黒海づり公園は横浜市の海づり施設です。横浜
ベイブリッジを眺めながら、行き交う船と水鳥など
のんびり、ぼんやり楽しむのは、最高のせい
たくの一つでしょう。釣りは、四季を通じて、タ
ナゴ、黒鯛、メバルなどが釣れます。潮風の心地
よい海の広場や池、オブジェなど、散策も楽しめ
る公園です。

馬場の赤門 名主の門

江戸時代、東寺尾、北寺尾、西寺尾、馬場の4か
村の総代名主を勤めた澤野家は、幕府から名字帶
刀と紅殻塗りの門を許されました。幕末には赤門
の2階に村役人たちが集まつて英語の勉強もした
そうです。残された長屋門は、馬場赤門公園とし
て整備されました。



ひびきばし
響橋

みんなは呼んでる めがね橋

ばし

国道1号線をまたぐ美しいアーチ形の響橋は、昭和16年（1941）に開通しました。「夜霧の第2国道は、昭和15年（1940）に予定されていた東京オリンピックのマラソン道路として造られました。橋の完成後に両側から山を切り崩し、中央部分に土が残り、まるでめがねのようだったことから「めがね橋」と呼ばれるようになつたともいわれています。近くにあつた洋館は、映画「陽のあたる坂道」に登場しました。

こころ

からだ

ふれーゆで 心も体も ほつかほか

横浜市高齢者保養研修施設「ふれーゆ」は、「高
齢者が安心していきいきと暮らせる福祉都市の実
現」を目指して整備された施設です。隣接する資
源循環局鶴見工場の焼却炉からの余熱を有効利用
した温水プールや大浴場、温室があります。高齢
者だけでなく、子どもたちにも人気のスポットで
す。ふれーゆから眺める夕日もきれいです。

弁天池 生き物いつぱい 楽しいな

寺谷にはかんがい用の水をたたえた大池がありました。鶴見臨海部の工場で働く人たちで、鶴見の人口が急増したので、昭和の初めに池は埋め立てられて住宅地になりました。大池の名残の弁天池には、ザリガニやカメなどたくさん生き物が生息していて、子どもたちの自然観察の場になっています。時折白鷺も飛んで来ます。

ホタルわく 獅子ヶ谷森の闇夜かな

ぞう きばやし せみ しぐれ やちょう こえ
雜木林の蝉時雨や野鳥の声など、獅子ヶ谷市民の
もり しぜん
森は自然がいっぱい。散策路も整備されています。

なつ で あ
夏の夜、運がよければ新池や西谷広場の泉で蛍に
出会いえるかもしません。闇夜には、都会では体
験できない街灯もない本当のまつ暗闇を味わうこと
とができます（恐い！）。でも、絶対に子どもたちだけで行つてはいけません。

まちかど 彩る サルスベリ

鶴見区制70周年を記念して、平成9年（1997）
10月に区の木に制定されたサルスベリは、8月頃
に紅色の濃淡や白色の美しい花が咲く、ミソハギ
科の落葉中高木です。長い期間、紅色の花が
咲いていることから「百日紅」とも書きます。

鶴見区民の花サルビアは、活気あるまち鶴見を象
徴する花として選ばれ、平成3年（1991）11
月に制定されました。

みんななかよし 多文化共生のまち 鶴見

鶴見区には80か国を超える国の人々が暮らしています。さまざまな国籍や民族・文化が織りなす「多文化の彩り」は、鶴見の豊かさであり、魅力の象徴です。平成22年（2010）12月には、多文化共生・交流の拠点となる「鶴見国際交流ラウンジ」がオープンしました。



むかし いま

みまも

じぞう

昔も今もみんなを見守るぼてふり地蔵

江戸後期、生麦のかしの河岸から寺尾や末吉にアサリや魚を天秤棒で担ぎ、売り歩いた「ぼてふりさん」たちが、三角の地で一休みし、「良き商いができるようだ」と手を合わせて地蔵を倒し、帰りに再び起こして願解きをしたといわれています。昭和20年（1945）の大空襲により台座のみ残りました。つくの商店街の人々により、平成15年（2003）に再建立されて、現在は地域のシンボルとなっています。

わかもの

めざせ若者 サイエンスフロンティア
上北はましりつ 上北はま
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校で
は、生命科学、ナノテク・材料、環境、情報の先
端科学技術の「ほんもの体験」をし、「驚きと感動」
による「知の探究」により、「世界で幅広く活躍」
する人間の育成」を目指しています。市大連携大
学院や理化学研究所などがある京浜臨海部研究開
発拠点は、知の探究のメッカになっています。

もくもくと 日本初の 陸蒸氣

にほんはつ

おかげじょうき

日本で最初に鐵道が開通したのは東京（現新橋駅）と
横浜（現桜木町駅）の間です。鶴見はその中にあり、
6番目に古い駅です。明治5年（1872）に両方の
駅で開通の祝典が行われ、翌日から一日9往復、10両
の車両で運行されました。その様子は煙突から吐き出
す煙とすさまじい轟音で驚きと珍しさに、沿線は見物
人で賑わったそうです。時速約60キロ、1時間で走って、
運賃は下等でも今の値段で約五千円もしたそうです。

矢止め地蔵の良忠寺

良忠寺は、仁治元年（1240）に淨土宗の僧、良忠が創建しました。境内には、新田義興が矢口渡の戦いで放った矢が、川崎の塚越を飛び越えて止まつたと伝えられている矢止め地蔵があります。矢が向かった先なので矢向の地名がついたとも言われています。弘法大師作と伝える身代り地蔵や福神漬の元祖大木家の墓、煉瓦工場従業員の慰靈碑もあります。

湯花神事を伝える愛宕神社の夏祭り

湯花神事は、湯立（ゆだち・ゆだて）神事とも呼ばれ、豊作を祝い、神に感謝する収穫祭として古くから行われてきました。神職が湯釜に浸した笹の葉に付いた湯玉を参拝者に放散し、人々の無病息災と家内安全を祈願します。昔は各所で行われていましたが、現在、鶴見区では、下末吉の愛宕神社に伝えられています。毎年8月第1日曜日、神社の朝に行われています。（8月1日が日曜日の場合は第2日曜日に行われます。）

よねまんじゅう 鶴見名物 おいしいね

江戸の昔、東海道の鶴見橋（現鶴見川橋）は景色
もよく橋の両側はいろいろなお店でにぎわってい
ました。その中でも、名物のよねまんじゅうを売
る店は、多いときには40軒もあつたそうです。普
通まんじゅうは小麦粉で作られますが、よねまん
じゅうは米の粉を使つていたので腹もちがよく、
街道を歩く旅人に喜こばれたそうです。今でも鶴
見名物として愛されています。

ランナーがたすきをつなぐ 箱根駅伝中継所

お正月恒例で人気のある箱根駅伝の往路1区から
2区、復路9区から10区への中継所は国道15号線
の市場交番前の歩道橋下に設けられます。小旗を
振る人たちが沿道にあふれ、熱い声援を送ります。
地元の人たちも近くの公園にテントを張り、選手
や関係者をあたたかく応援しています。近くには
「花の2区」をたたえるランナー像が平成9年(1
997)に建てられました。

龍神が二つに分けた二ツ池

獅子ヶ谷と駒岡に隣接する二ツ池は、もとは一つの池でしたが、龍神によつて二つに分けられたといふ伝説があります。ヨシ、マコモなど水生の植物が豊富で、県内では絶滅の危機に瀕しているイトトンボやアオヤンマなど貴重な昆虫の生息地になっています。地域の人たちの願いが通じて、将来は自然や生物に配慮した公園として整備される予定です。

ルビー色 夜空にきらめく 臨海部

京浜工業地帯の海辺には石油コンビナートがたくさんあり、昼夜24時間操業の工場では、夜は仕事や安全面から蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などで明るく照明をしています。石油精製工場から放し出されるガスの炎も加わって、色とりどりの光に、夜空が美しく彩られています。まさに百万ドルの夜景です。



レトロの香りのこる 国道駅

国道駅は、昭和5年（1930）に鶴見臨港鉄道の開通と同時に開業しました。大正15年（1926）に開通した国道の上に造られたので、その名が付きました。生麦魚河岸へ続くアールヌーボー風の駅舎は、テレビや映画にもしばしば登場しました。構内にあつた臨港デパートでは、食品や衣料品などを販売し、多くの買物客でにぎわつていました。当時の最新技術で造られたレトロな佇まいが、今多くの人を惹きつけています。

論より証拠 浅野の埋立て

浅野総一郎は実業家の渋沢栄一・安田善次郎など
の協力をえて、日本の近代化と工業の発展を願つ
て、鶴見の遠浅の海岸を埋め立て、旭硝子や芝浦
製作所（現東芝）、日本鋼管（現JFE）、浅野造
築きました。鶴見線の浅野駅にその名を残してい
ます。創設した浅野学園の丘に臨海部を見下ろす
銅像が建っています。

ワツくんはいつもみんなの **人気者**

ワツくんは、区制60周年を記念して昭和63年（1988）に誕生した鶴見区のマスコットです。つるみフェスティバル'88のマスコットのワニが誕生のきっかけです。鶴見区の形がワニの顔の形に似ていることも理由の一つです。区内各所で行われるイベントに出没し、「ワツくんがきた！」と、子どもたちに大歓迎されています。タオルハンカチやワツくんグッズも大人気です！

ん・ん・んみんなでうなづくあかるい鶴見

鶴見は住みよいまち、楽しいまちです。みんな仲良しです。隣近所の人たちがお互いに声をかけあって、協力しながら、よりよいまちづくりをすすめています。のびのびすくすく育つ子どもたちを地域の人たちが見守っています。一人ひとりがまちづくりの主人公になつて、「ワツくん鶴見カルタ」で友だちの輪をひろげ、もつともつと明るい地域社会を築きましよう！

